

た。余が福島の編輯主任として其腕を振ひ、時事新報支局記者として其技量を認められたのであつた。かくて余が七年會を起

内郷村報の 六大使命

- 一、政黨政派を超越して、村力充實主義を標榜す。
- 二、村内外公私各機關の活動状況を報導し併せて其協調を計り、總親和總努力の實現を期す。
- 三、本村共済事業の底を期す。
- 四、村内の善事美行を表彰し、且之を獎勵す。
- 五、本村出身者及本村關係者との聯絡を計り、且其發展向上を期す。
- 六、尙餘力を以て、國民善導に當る。

内郷村報

行發日一回一月毎
 郵政特准掛號第...
 大内民惠 編輯
 大内民惠 發行
 大内民惠 印刷
 大内民惠 活版所

マルクス主義

マルクス主義

記者は、我子供等や、日常交際して居る人々やから、屢々かゝる質問を受ける事がある。聊か我所見を述べて見やうと思ふ。もとより記者は、マルクス主義研究者でもなく、社會主義禮讃者でもないのである。然ら、之を専門的に將徹底的に、説明論断する力もなく、又其柄でもなく、且我紙面に餘裕を有せざるを以て、唯從來一通りのぞいて来た範圍内に於て、前記の人々に、語り聞かせる様な程度に、其概要と感想の一端とを述べて見たいと思ふ。此点は豫め御断りして置く。

マルクス主義とは、今から六七十年前に、ユダヤ系の獨逸人カール・マルクスが、發表した主義思想であつて、其友人エンゲルスが補翼完成し、科學的社會主義と稱せらるゝものである。而してそれを信奉する者に對して赤化したとか左傾したとかといはれてゐるのである。

其出發点は唯物史觀であつて、人類の歴史は經濟的原因によつてのみ支配されるものであると主張し、資本家の有する資本即ち富なるものは當然労働者に分配して支拂ふべき性質の賃銀の集積であるにもかゝらず、之を搾取し且獨占して居るものである。故に労働者は資本家と闘争して、自己の利権を獲得しなければならぬ。人類の歴史は、自由民と奴隸、貴族と平民、領主と農奴、親方と職人、つまりは

壓迫者と被壓迫者との闘争の記録に外ならぬ。而して其結果は當然後者が勝利を得て、社會主義的新社會が生れ、人類の幸福も文化も皆其より生ずる。其が當然の歸結である。其が當然の労働者よ團結せよと叫んで居る。

尙言を代へて之を説明すれば、資本家は労働者を搾取して、生産利益を獨占し、労働者は労働を搾取せられ、利益を奪はれて貧

本紙發行は大内一家の事業にして、其の社説は子孫に對する遺言を兼ねるものなり。

その所有は勿論、生活の安定をさへ得る事が出来ないの山や野にある自然物を食ふて、遊んで居た方がよいと、國を擧げて怠ける様になり結局失敗に歸したのである。

ここでスターリンは其後をうけて、之を緩和し所謂産業五年計劃を立て、一先づ國民の財産所有を認めめる事にし、種々の劃策を講じて居るのであるが、其結果は未だ之を見る事が出来ぬ。されど結局は漸次に其財産は沒奪する事になるのである。故に緩急の差こそあれ、全國の財産を政府に集中して、政府は唯一の大資本家となり、政治は勿論、生産も分配も貿易も一切が、其一手に行はるゝ事になるのである。

かくて國民は、無産生活を餘儀なくせられ、其労働に對しても、何等餘分の報酬をうくる事なく、唯労働に必要な居所衣服食物等、辛うじて間に合ふ丈の物資を配與せらるゝに過ぎないのである。而して此

組織を維持し實行する爲には、政府即ち一大資本家の手足となつて働く、夥しき監督階級の國民や、龐大な陸軍が常備せられるといふ有様で、こゝに大資本主義大軍國主義の國家が形成されてゐるのである。我國に於ても近頃かゝる主義者が現はれて之を讚美し之が實現を企圖して居る者もあるのである。實に危険千萬

故に之を辯して危険思想とはいはるゝのである。それは勿論、ロシアの様な歴史を有し、國民は多年の壓迫に馴れ、如何なる困苦缺乏にも耐え得る國民性を持つて居るから、表面は何等反對せんともしないのでもあらうが、かくては全人類を斷崖絶壁から大海に投身せよと命令するものである。否からざれば人類は禽獸に還歸して、人類たる事を廢止せよと脅威するものと云ふべきである。

米國のデューク大學經濟學教授フーヴァ氏は、二ヶ年間同國に在つて、親しく經濟事情を調査し、最近ソヴェートロシアの經濟生活と題する一書を出してあるが、十三章三百六十頁

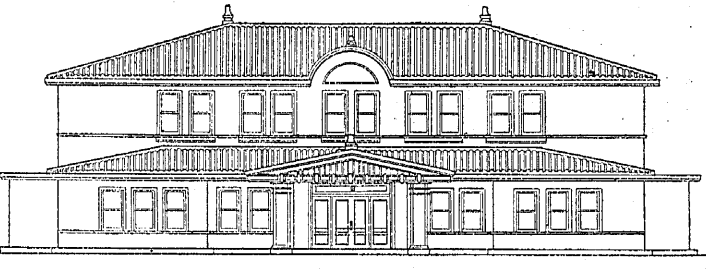
（以下二面へつづく）

(一面よりのつづき)
に亘る著者の觀察は、頗る傾聴に値する様に思はれる著者は徹頭徹尾ロシアには苦痛が多く、共產主義は平和を齎らさずして、却つて剣を齎らし、權力の闘争が富の闘争に代はり、仲間同志の嫉妬猜忌は甚しく、今やプロレタリア國家に、新しきプロレタリアが發生し史上未だ曾て斯くまで自由の束縛せられたる前例を見ない迄極論して居る。又最近歸朝した我有馬海軍中將も、殆どフ氏同様の觀察談を發表して居る。

之を要するに、我々は温故知新で、所謂新しき知識や思想の研究も吸收も大に結構ではあるが、一面には故きを温ねて人類の歴史、殊には我國の歴史や東西思想の變遷得失等を具さに講究して、採正捨邪社會人として將た國民としての地位立場が、どうあるべきかを決定して、其去就を誤らない様に心掛くべきものであると痛切に考へられるのである。それが又人類として將た國民としての本務であると信ぜらるゝのである。

淺野紀念會館の設計全く成る

偉大なる淺野翁を紀念するには、それにふさはしき



(面正) 圖計設館會野淺

完成せられた。今其概要を聞くに、鐵網コンクリート十間半に十四間百五十餘坪二階建て、二千人を收容し得る大ホール、事務室、寢室、娛樂室、喫煙室、控室、樂師室、機械室、階上にも亦小ホールを有するといふそれこそ現代に於ける斯界の粹を總合したるもので、約一萬三千圓の建設費を要し、來春三月頃落成の由である。

豪壯にしてしかも高麗な紀念館を作りたといふ、前川專務はしめ幹部一同の苦心する處であつたが、此程漸く斯界の權威前田健次郎氏の手によつて、其設計は



余が先年村會一致の推薦をうけて、始めて村長に就任した時に、教育改善、役場事務刷新、道路完成、水道敷設、基本金整理の五項目を擧げて、其理想の一端を披露した。爾來専心其實現を期して居つたのであつたが、財界の不況は益々深刻を極め、政府の緊縮政策は、延いて村治に於ても、之に順應して村民諸子の負擔軽減策を講ずる可からざる状態に陥り、積

で、其不足額は各重役に於て、それら方法を講じて調達するとの事である。此に掲げたのは、青寫眞を凸版にしたものであるが次號には特に前川專務から寄贈になつた、設計畫の寫眞を掲載する事にする。

改選、事業計劃の二件を協議決定した。重なる新役員は左の如くである
會長 野木龜之助 副會長 小島良利 加藤丈夫 理事長 佐藤理助 理事 七海寅十 大友寅吉 草野佐市 郎 金澤爲喜 根本本林 平立 枝信勝 劍道部長 大友寅吉 同幹事 十四名 柔道部長 石橋弘毅 同幹事 五名 弓道部長 猪狩喜平 治 同幹事 十七名
鈴木積善師 業兒童夏 期施設の實際を寄せられた師は謙遜して小著といつて居るが、其内容は堂々たるもので、未だ開拓せられざる斯界にとつては、唯一無二の一大羅針盤たる寶典。切に其公刊を望む。
本紙贊助金寄贈芳名
一金五圓 白水 杉山今朝吉
一金五拾錢 宮澤 小松 金太

武徳會役員會
同會は八月二十日午後六時より武徳殿に開會。役員再選就任に際して村民各位に一言す
内郷村長 野木龜之助
極的の事業の如きは、一指をも染むる能はざる事となり、我聲明も理想も之を實行し得なかつた事を、心切かに遺憾として居つたのであつた。然るにも係らず、此度も亦全員一致を以て、不肖を再選して此重任を負はざるに到つたといふ事は、其光榮に感激するも共に其責任の重大なるを思はざるを得ない次第である。「人事を盡して天命を待つ」
余は此際此一句を以て、余の大信條とし、萬難を排して局に當り、余の振出しに前記五項の形の手支拂を了し、以て各位の期待與望に、報いたいと專念する次第である。且我長友大内氏は、村力充實主義を標榜提唱して、民の能

我國教育學界の權威
京大教授小西重直博士
寄せて曰く、多年ノ御體験ノ實地ノ御試練ニ基キ眞學愛國ノ大精神ヲ拜味仕リ不思感激ニ打テ申候云々。
發行所 日本評論社
東京丸の内昭和ビル
取次所 内郷村報社

大内氏による卷幡氏追悼會

矢野恒太 服部宇之吉 大内民惠著
教育制度改革概論
(四六版二二頁 定價五十錢 郵税六錢)
行き詰れる現代の教育制度を解體して、學理と實際と、歴史と實驗とから新に大内案九主義を提唱す。天下知名の士の賛同枚舉に遑あらず。されど未だ一人の抗議者も現はれず。

長を有する事は、磐炭の誇である。心切かに感嘆せざるを得なかつた。かくて簡單なる畫巻を共にして散

共同供養會 御殿宮澤の兩親和
健康保險 與羽六縣事務會局主催で、八月十九日より一週間、仙臺市に於て開

務であると思はれるのである。
 八月九日朝 凡平

川専務はしめ幹部一同の苦心する處であつたが、此程漸く斯界の權威前田健次郎天の手によつて、其設計は

行き詰れる現代の教育制度を解體して、學理と實際と、歴史と實驗とから新に大内案主義を提唱す。天下知名の士の賛同枚舉に違あらず。されど未だ一人の抗議者も現はれず。

我國教育學界の權威
 京大教授小西重直博士
 書を寄せて曰く、多年御體験ト實地ノ御試練ニ基テ眞摯愛國ノ大精神ヲ拜味仕テ不思議感ニ打タレ申候云々。

日本評論社
 東京九ノ内昭和ビル
 發行所
 取次所
 内郷村報社

矢野恒太序 大内民惠著 教育制度改革概論

(四六版二一頁定價五十錢 郵稅六錢)

大内式による 卷幡氏追悼會

濱崎課長の感激談

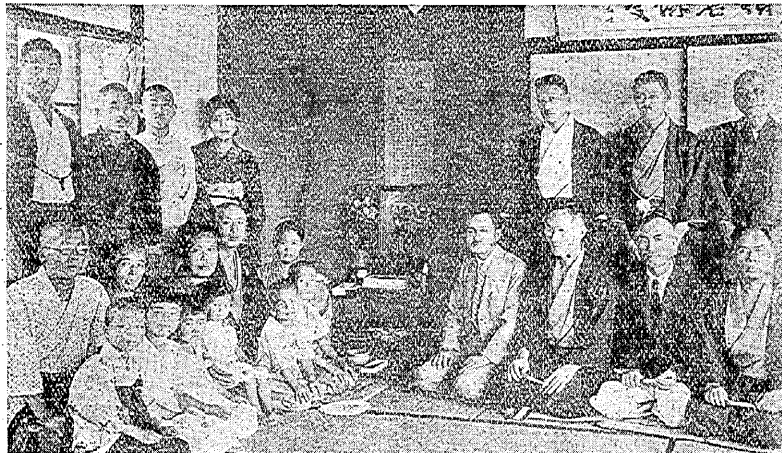
前勞務課員故卷幡常六氏の三回忌追悼會は、八月二十一日午前九時より、記者一家の主催で、七年會別館階上に於て、大内式によつて行はれた。警若心經をかけた床の間の正面に、故人の寫眞と、即心常空居士の位牌を安置し、香華、燈燭、茶菓、珍膳を供へ、未亡人



濱崎課長

並三遺兒、濱崎課長以下勞務課幹部、安田夫人並二令孫、七年會代表及記者の全家族之に參列し、記者自ら導師となり、妻は木魚と鐘の役を承り、參列者一同之に和して、心經と修證義とを讀誦し、回向文を捧讀し故人追悼の辭を述べて(第四面參照)全部の焼香が終れば、濱崎課長は參列者に對して、故人が入社當時の状況から、退職する迄の事情を語り、其功績人格手腕

等を賞揚し、其之あらしめたるは、君が勵精刻苦修養のいたす結果であること、余は崇敬措く能はず、其遺影を額面に仕立て、常に我一家を擧げて追憶し景仰して居る次第である。孝心深き君が、故山に歸つて母堂に奉仕しつゝあつたのを、余が懇請して其團樂から君を奪ひ、しかも御苦勞をかけた事からしめたかの如くに思はれて遺族の方達に對して、何共申譯がない様に思はれると、歎歎流涕、言々句句肺腑を絞れば満座闐として聲なく唯嗚咽するのであつた。記者は卷幡氏の生涯は實に立派なものであり、然して幾千の従業員の人事を司るに、此課



卷幡常六氏追悼會紀念

追悼の辭を寄せられたるは感謝に堪へなかつた。
 盆踊 舊七月十四日よ神社境内、金坂運動場、綴地蔵堂前の三ヶ所に、大櫓

長を有する事は、警炭の誇であること、心切かに感嘆せざるを得なかつた。かくて簡單なる晝餐を共にして散會した。因に當日參列すべかりし筒井運輸課長は、其出張先東京より特に電報で

を、盛大なる御殿宮澤の兩親和會では、聯合協議會を開き生活改善の趣旨に基き、新益に相當する七十五靈の爲に、舊七月十四日午後二時より、眞光院瑞芳寺の兩寺に於て、勞務課員、親和會幹部、青年團員が、各遺族に加はつて、莊嚴なる共同供養會を舉行し、ジャンガラ念佛の供養もあつた。一施主當りの費用は、僅かに五十錢つゝであつた。

御殿宮澤の兩親和會では、聯合協議會を開き生活改善の趣旨に基き、新益に相當する七十五靈の爲に、舊七月十四日午後二時より、眞光院瑞芳寺の兩寺に於て、勞務課員、親和會幹部、青年團員が、各遺族に加はつて、莊嚴なる共同供養會を舉行し、ジャンガラ念佛の供養もあつた。一施主當りの費用は、僅かに五十錢つゝであつた。

共同供養會

御殿宮澤の兩親和會では、聯合協議會を開き生活改善の趣旨に基き、新益に相當する七十五靈の爲に、舊七月十四日午後二時より、眞光院瑞芳寺の兩寺に於て、勞務課員、親和會幹部、青年團員が、各遺族に加はつて、莊嚴なる共同供養會を舉行し、ジャンガラ念佛の供養もあつた。一施主當りの費用は、僅かに五十錢つゝであつた。

警炭陸上競

技部では濱崎課長を新部長に迎へ、それ鶴田名譽顧問菅原顧問をはじめ顧問幹事等の各役員數十名を囑託し、陣容全く整へたるを以て、其を紀念する爲に、八月二十一日金坂運動場に於て、紅白社合の大競技を舉行した。

前川専務

は社用を帯び八月二十三日來山、同二十五日歸京。石橋弘毅氏は濱崎氏に團支部長會議に列席の爲、八月二十四日東京、其任務を果し、各名士と會見したり、濫澤子爵の懇應をうけたりして、二十七日に歸山

伊藤南州

氏講演會は八月九日昭和館に開催。義士外傳と探偵談の二席。例によつて盛會。曲山福治氏は(エ)は杖警城訓盲院に寄贈し、其奇特を感謝せられた。小松醫院 小松金吉氏は出張所を開院し、城戸醫院の勤務を辭したる江連清明氏は、改めて同院に勤務する事になつた由。

才、卷幡君!

大内民恵

才、卷幡君! 月日は流る、が如く、君逝いては、三週年もなつた。思へば夢の如くである。回顧すれば二十年の昔、布哇に於て、君が親友黒川哲爾君が余に向つて、我親友に卷幡君六さいふ者がある、彼は温厚篤實の青年教育者で、殖民地教育の研究を志して居るから呼び寄せて載きたい、身許一切は私が保証するといふ事であつたので、余は上司今村憲徳師の御許しを得、余の證明によつて、君を布哇に迎へたのであつた。而して布哇



氏六常幡卷故

の五年間は、我配下にあつて忠實に其任務を果してくれた。又余が首唱者の一人となつて、布哇教育會を組織し、其常務理事として、布哇教育の方針決定に苦心した時、または教科書編纂委員として、其事業に當つた時、常に君は我秘書となり將書記となつて、大に貢献してくれたのであつた。それから余が歸朝して、故大隈侯爵等の贊助の下に、春風學園を起すや、君は布哇より馳せ歸つて其援助者となつてくれたのであつた。余が福島に轉するや、君亦後を逐ふて來り、福島の編輯主任として其腕を振ひ、時事新報支局記者として其技量を認められたのであつた。かくて余が七年會を起

し、常務理事たるはしを發刊するに至るや、總てをなげうち、來つて我に聲援する事相變らずであつた。其人格其手腕は終に磐石の如く、其熱望を遂げ、入つて其課員となり、精勵よく其至誠を致したのであつた。されど我一家に起臥する事舊の如くにして、よく我事業にも其智囊を傾けて貢獻してくれた事は決して少くなかつたのである。かくて警院に於ても、將我一家にまつても、君に期待する處實に多大であり、君も亦將來大に成すあらんことを修養研鑽せしめる事はなかつたのである。然るに、君は何事もこれからいふ時に、さういふ郷里に於て進んでしまつたのであつた。課長をはじめ同僚各位、並に我一家の驚愕感嘆は一通りではなかつたのである。數百里を隔つるが故に、其時日なく、君が葬儀に參列する事も出来なかつた事は、一生の恨事誠に君に對して濟まない事であつた。之は君が墓前に我々夫妻が、親しく御詫をした通りである。

生前余は或機会に、君に向つて君と余とは如何なる因縁があつたものか、二十年近くも形影相伴ふ如くに暮して來たが、老翁は不定である、我々兩人の中、誰が先に逝くかはわからないが、其何れにしても後に残つた者が、其遺族の御世話を任合ふ事にしやうではないか、といふ事があつたが、不幸にも若し君が先立つてしまつたので、今、余が一家は其約束を實行すべく、聊か其微力を致しつゝあるのである。未亡人も、明かみ子の三君も、皆我家にあつて、昔の通り昔の部屋に暮して居る。未亡人は將來産師として自活の道を講ずる爲に、學生に立ち返つて、産婆學校に通學して居る。なりにもふりにもかまはずにそれこそ涙ぐまじき奮闘を續けて居る。小君は此四月余が伴ふて高坂の小学校に入學させてあげた。成績もよくお父さんよりははえらい人になるさういつて勉強して居る。其入學の時に圓らすも十餘年前君が毎日我長男の一郎をつれて、女子大學の幼稚園に行つてくれた當時の事なごを思ひ出して實に無限の感にうたれたのであつた。明君も大人しく留守居をふくんで、晝休みをするさういふ有様である。それに伊豆にある未亡人の令兄丹羽修輔君夫妻、廣島にある君が令姉坂坂至元師夫妻も亦共に、精神的にも物質的にも多大なる聲援をして下さるので、一家四人の將來は決して心配はなからうと思はれる。又我々は心配なからうと微力を致したいと思つて居る。

茲に亦余が感激措く能はず、特に君に報告する一事がある。それは我遺囑課長は、余が先年布哇に於て、寫眞を撮らした君を、大に笑はして不意に撮つた寫眞があつたらう、あれを擴大して額面にしたらう、御両親と並べ掲げて、朝夕御一家を擧げて、追憶し崇敬して下さり、且つ遺族に對して常に音問を絶たず、將來の事共を何くれと御配慮下さる事である。君も亦死して餘榮ありと云ふべきである。それから布哇に於ける、黒川君はしめ十餘人の密友諸君は、君の死を聞いて、哀悼措く能はず、直ちに相寄つて追悼會を行ひ、多額の香資を寄せられたのであつたがそれは其儘余が保管して據置郵貯に托し、將來何かの場合にお役に立てやうと思つて居る。こゝに之をも併せて報告して置く。四十歳の君の一生は、決して永くはなかつた。然し君は黒川君が余に證明した通り、一生温厚篤實に富貴を淫する能はず、貧賤に移す能はず、威武を屈する能はず、實に大丈夫の氣概あり氣骨ある生涯であつた。而して君が生前布哇教育界にのこした功勳、警院に致したる功績、我一家に盡して及ぼしたる精神的感化は、實に偉大なるものであつて、永遠に其光輝を放つものである。本日君が三週忌に當つて、我一家が課長以下各位の御列席を乞ふて、君を追悼するに際し、眞に感慨無量、云はんさ欲する事も満足に之を發表する事が出来な。君! 希くは我等の微衷をうけてくれ給へ。合掌。

内郷村報を讀みて 法の風みなざる家や夜の秋 長沼町 磐瀬鐵鐸 里に居る心地に還る良夜かな 福島署 猪狩晃義

内郷村報の 六大使命

- 一、政黨政派を超越して、村方充實主義を標榜す。
二、村内公私各機關の活動状況を報導し併せて其協調を計り、總親和總努力の實現を期す。
三、本村共済事業の底を期す。

- 四、村内の善事美行を表彰し、且之を奨勵す。
五、本村と本村出身者及本村關係者との聯絡を計り、且其發展向上を期す。
六、尙餘力を以て、國民善導に當る。

本紙發行は内郷一家の事業にして、其の社説は子孫に對する遺言を兼ねるものなり。

組織を維持し實行する爲には、政府即ち一大資本家の手足となつて働く、夥しき

内郷村報の 毎号一圓 毎季三圓 毎半年六圓 毎年十二圓

大内民恵

其結果は當然後者が勝利を

の所有は勿論、生涯の安定

は、政府即ち一大資本家の